

(1)「水枕がぼりと寒い海がある」 西東三鬼墓碑

西寺町の成道寺本堂の南側にある齋藤家の墓碑に刻む。色紙型に代表作といわれる句。原句は「り」だった。短冊型墓碑銘は山口誓子の筆。

本名 齋藤敬直（けいちよく）。

成道寺



(2)「花冷えの城の石崖手で叩く」 西東三鬼

近年俳句の旗手とされる三鬼（明治33年から昭和37年）は「天狼」（山口誓子主宰）創刊の中心り、自らは「激浪」「断崖」を主宰した。

南新座に生家、西寺町 成道寺に代表作「水枕がぼりと寒い海がある」を刻む墓碑がある。

本名 齋藤敬直（けいちよく）。

津山文化センター

昭和53年 文化の日 設置



(3)「枯薄のうごく時来てみなうごく」 西東三鬼

近年俳句の旗手とされる三鬼（明治33年から昭和37年）は「天狼」（山口誓子主宰）創刊の中心り、自らは「激浪」「断崖」を主宰した。

南新座の生家前庭にある。代表作の一つで、昭和二十一年、奈良・薬師寺で詠んだ。

本名 斎藤敬直（けいちよく）。

南新座の生家前庭。

平成4年4月5日設置。



(4)「鐘つかぬ里は何をか春のくれ」 松尾芭蕉句碑

鶴山公園松の段、城跡の鐘が時を告げていたのにちなみ、明治36年、鶴盟社の俳人たちが建てた。

鶴山公園松の段

明治36年4月設置



(5)「生ぬくきにほひみたせて山ざくら咲ききはまれば雨よぶらしも」 尾上柴舟句碑

鶴山公園松の段、城跡の鐘が時を告げていたのにちなみ、明治36年、鶴盟社の俳人たちが建てた。

本名は尾上八郎（はちろう）。

鶴山公園松の段

明治36年4月設置



(6)「柳散る作の暮しの川添ひに」 中村汀女句碑

吹屋町の城見橋北詰。汀女はNHKテレビの俳句講座の講師として活躍した俳誌「風花」主宰者。文化センター落成記念講演会に訪れたときの作品。

本名 中村破魔子（はまこ）。

吹屋町の城見橋北詰め

昭和53年文化の日設置。



(7)「公孫樹下にたちて」 薄田泣菫詩碑

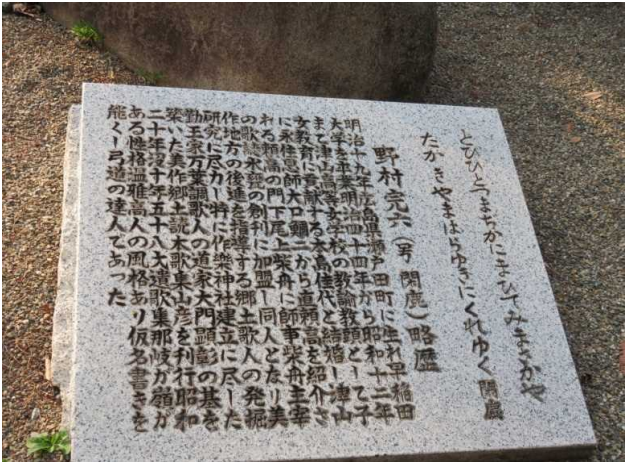
長法寺（井ノ口）境内。石段下の大銀杏の下にある。「公孫樹下にたちて」の一節。また石段上の南端には第二詩碑。

本名 薄田淳介（じゅんすけ）。
長法寺境内。
昭和40年文化の日設置。



(8)「とびひとつまぢかにまひて美作や高き山はら雪にくれにゆく」 野村完六歌碑

作楽神社の社殿西の林間にある。歌誌「水甕」同人で郷土史家。
作楽神社境内。
昭和43年文化の日設置。



(9)「院庄六百年の涙雨」 井上剣花坊川柳句碑

作楽神社の池のほとり。剣花坊は山口県萩出身の有名な柳人で、院庄の故事をしのんだ句。
本名井上七郎（幼名）のちに井上幸一。
作楽神社境内。
昭和7年4月設置。



(10)「黒猫の子は黒猫や寺涼し」 竹久雨町句碑

小田中の長雲寺境内。雨町は俳誌「雲母」同人、「山彦」を主宰した。山彦俳句会設置。
小田中の長雲寺境内。
昭和52年12月11日設置



(11)「蟬しぐれ坂はのぼりに夢多し」 塩尻青茄句碑

小田中、長雲寺境内にある。青茄は吉備郡真備町の人で、俳誌「雲母」同人。俳誌「天山」を主宰した。
小田中の長雲寺境内。
昭和56年11月5日設置。



(12)「旅住みて思郷つのれば吉井川古城のこだまゆめに流るる」 平井乙磨歌碑

山北の総合体育館前。乙磨は津山出身で「水甕」の幹部同人。
小田中の長雲寺境内。
昭和56年11月5日設置。



(13)「十万石の城の芯たり花の雲」 勝山青溪歌碑

北園町のスーパーマーケットを東へ入った公園の道路に背を向けて建つ。

北園町 公園。

昭和56年11月5日設置。



(14)「うつくしき五郡の山に護られて学ぶ少女はいみじかりけり」 与謝野晶子歌碑

美作高校(山北) 玄関右手に。晶子は雑誌「明星」で活躍した大歌人。昭和八年に津山を訪れて、小京都らしい山なみの姿と女学生達を結びつけて詠んだ。

本名 与謝野志よう（しょう）。

美作学園（山北）玄関右手。

昭和40年11月3日設置。



(15)「秋曇そのまま暮れてしまひけり」 秋久風来句碑

美作高校(山北) 正門右手にある。風来は「雲母」同人で、美作学園で書道を教えた。同僚の居森李鳶書。
美作学園（山北） 正門右手。
昭和12年12月設置。



(16) 彫 無季（津山郷土博物館前庭）

彫書の創始者で本町二丁目出身。平成四年死去。遺族が建碑した。「上徳」と彫書の直筆を縮小して浮き彫。
本名 河野省三（こうの せいぞう）。
津山郷土博物館前庭。
平成4年12月設置。



(17)「瀧落ちて水色をとり戻す」美濃真澄句碑

横野ノ滝二の滝にある。真澄は俳誌「天狼」同人で、英田郡作東町出身の医師。高槻市在住。
横野ノ滝 二の滝。



(18)「三段の瀧音一つになりて落つ」美濃寿満子句碑

横野ノ滝三の滝にある。寿満子は真澄夫人で俳誌「七曜」同人。苫田郡鏡野町出身。
横野ノ滝 三の滝。
昭和57年4月29日設置。



(19)「弓とらず太刀さへ佩かずなりにけり案山子の前を行くもはづかし」道家大門歌碑

院庄・作楽神社の参道わき。津山藩士で明治三歌人（直頼高。小原千座・道家大門）の一人で国学者。碑の「立德立言」は元総理大臣平沼騏一郎の筆。

作楽神社の参道わき。
昭和16年設置。



(20)仁徳天皇、黒媛、武川勝歌碑

昭和池のほとり。三つの歌を一基に刻む。吉備の黒媛伝説により「古事記」の黒媛の里に行幸された地を、方として歌誌「蒼穹」の歌人、武川勝が建てた。

昭和池。
昭和47年2月20日設置。



(21)「萩の花咲くあたりまで後追いて吾を呼ぶなり吾子の泣く声」 杉本繁夫歌碑

昭和池のほとり。歌誌「草原」 同人の歌人。
昭和池。
昭和47年2月20日設置。



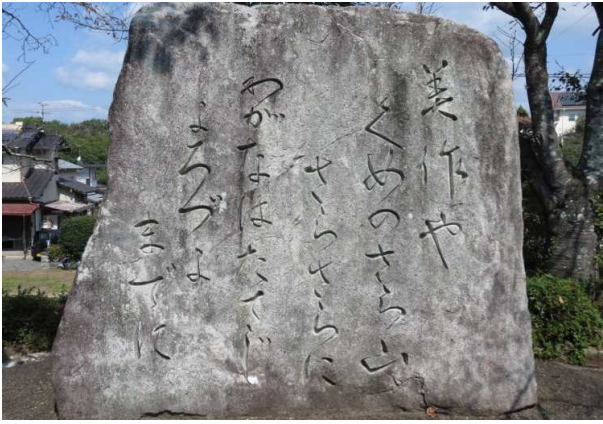
(22)「松せみのこゑそろひたちこの里に麦熟れ日和よくつづくなり」 桑山武之歌碑

山方の昭和池のほとり。武之は旧一宮村助役の歌人。
昭和池。
昭和16年10月津山市小原に建碑のち山方に移転。



(23)「美作や久米のさら山さらさらにわが名はたてじ万代までに」古今集

平福の老人福祉センター入り口。「古今集」に出てくる一首で、詠み人知らず。
皿。老人福祉センター。
昭和54年11月3日設置。



(24)「悲の面はたった一つで下りてくる」定金冬二歌碑

昭和23年創立の津山番傘川柳会の初代会長で、現在「川柳1枚の会」代表。富田林市在住。
津山市山下。音の広場。
平成5年設置。



(25)「上徳」彫無季

彫無季（本名 河野省三）は明治7年津山市に生まれる。
津山郷土博物館前
平成4年12月設置。



(26)「佐保姫に合ふ靴をおく花の下」白石不舎

白石不舎（本名 白石 哲）は昭和23年三鬼の初帰津を迎え、師事。全国に西東三鬼の業績を顕彰した。
津山文化センター
平成24年9月設置。



(27)「城北橋の飾り欄干の俳句」

東(春) 鎮魂のぬさともならず春の雪	次男
南(夏) 死火山麓泉の声の子守歌	三鬼
西(秋) 木の実山その音危機に帰らんか	次男
北(冬) 寒夜明け赤い造花が又も在る	三鬼

西東三鬼と安東次男の句を配してある。

津山文化センター
平成24年9月設置。

